

14 卒業生の就業継続に関する要因について

— その I —

高知女子大学

山崎 智子 (3回卒)

南 裕子 (11回卒)

はじめに

高知女子大学衛生看護学科は創立以来24年を経過し、21回の卒業生393名を社会に送り出している。

これらの卒業生は社会の要請に果して応えているであろうか、応えているとすればどのような因子によって支えられ、結果として要請に応えているのであろうか。

大学の教育を担当しているものの一人として、反省の時期ではないかと考え、評価を試み、今後の教育の場に活かしてゆきたいと考えた。

目 標

今回は、1) 現在の卒業生職業別就業状況を知るとともに 2) 卒業後の動向を把握し 3) 在学時の実態と1)・2)との関係を探ることとした。

調 査 方 法

対象者は高知女子大学衛生看護学科の卒業生全員(393名)であり、情報源としては、卒業生の動向に関しては、昭和50年6月に第1回発送し、10月に再発送を行った卒業生の動向調査のアンケートへの回答と、当大学の教員で把握している卒業生の状況に関する情報をもとにした。

ちなみにアンケートの回答率は卒業生全体の42%であった。この結果を昭和47年12月末に調査把握していた情報との比較を行った。

在学時に関する情報は、当大学教務課および厚生課に保存されている書類をもとにしている。

この調査は昭和50年12月に行われた。

1) 卒業生の職業別就業状況

昭和47年・50年12月末現在の職業別就業状況を比較してみると、表1下段の如くである。50年は学校保健に携わるものが、僅かに増加しているのみで看護婦・保健婦・看護教育とそれぞれ減少していることが判明した。減少分が主婦・学校保健・その他へ流動していることである

う。

表3をみると、安定期にある1～10回生(164名)についての比較では、顕著な変動はみられず、まさに安定期であるといえそうである。さらに11～18回生(168名)までの比較では、就業率82.1%から64.3%へと安定期に近づく数値を示している。尚、今回の調査で、1～10回生と11～18回生との就業率を比較してみると、より若い11～18回生の方が低くなっている。

2回の調査結果だけの比較で、20余年の変遷傾向の推測は不能であるが、今後どのような進展をみるか追跡の必要があろう。

これは最近になる程、長期にわたる就業者が次第に少なくなることを暗示しているのであろうか。

2) 卒業後の動向

対象者が、大学卒業後、専門職者として職業の変遷があったかどうか、またどのような経路を辿るのか、さらに結婚や出産など私的な面では、卒業後どの時期に遭遇し、それが職業を維持してゆくのにどんな影響を及ぼすのか、アンケート調査の回答をもとにして、探ってみた。なおアンケート調査回答者は卒業生全体の42%にすぎないので、この結果をもとにして、全体の卒業生として一般化できないが、表1と2から、職業別合計の割合を対比させると、近似しているところから、アンケート回答者が、卒業生のある偏った集団ということではなさそうである。

それではまず、対象者が卒業時にどんな職業を選択したかをみると、表4の示す如く、看護婦が最も多く、全体では51.3%である。

養護教諭と保健婦がそれについている。年代別にみると第Ⅳ期で看護婦数が減少し、かわりに看護高校就職者が増加していて、当大学の卒業時点での就職の面においても、時代の要請が大きく影響していることがわかる。最近になると、産業保健婦や臨床保健婦を含める保健婦数と、進学などその他のグループが増加し、卒業直後から学校への就職は減少している。

卒業時の職業が、その後どのような経過を辿ったか、特に16回生までを集計してみると表5のようになる。

卒業直後の職業を継続した人は、養護教諭が最も多く、この職種では転職や退職者が少ないことがわかる。看護婦で就職した者の $\frac{1}{4}$ は、3年後に主婦になっていて、転職後主婦となった者を合わせると、44%にもなる。

看護高校教員も退職する者が多く、転職経験者を含めると、53%になる。保健婦は絶対数は少ないが、転職や退職者が養護教諭について低い。保健婦を除くと、どの職業においても卒業後、3年目が仕事を継続するかどうかの分れ目のようである。看護婦の場合、2年未満で退職した者が8人であるところから、他の職業に比して主婦になって退職するのが早い。

結婚状況では68.7%の対象者が既婚者であり、平均結婚年齢は25.1才で、それは職業の有無または職種別にみても大体同じである。

有職者の既婚者では、養護教諭が最も多く、次いで看護教員である。退職前の仕事では、看護婦が最も多く、かつ既婚者で看護婦である者が少ないところから、看護婦と結婚の併立が困難であることを示しているといえよう。未婚者に看護婦が多いが、これは卒業後間もない対象者が多いためである。

3) 在学時の背景と卒業後の就業の有無

私達は、今まで卒業生の卒業後の動向を見てきたが、今度は目をその卒業生の在学時の状態に移してみよう。1つは生来の家庭環境が、卒業後も継続して仕事を続けてゆくことに関係があるだろうかということであり、もう1つは、学生時代の学力が、仕事を継続してゆく動機づけになっているかどうかということである。

在学時の調査から、学生時代の環境を概観すると、出身地では、勿論高知県が最も多いが、最近になるにしたがって、県内と県外の割合が5分5分になってきている。

入学時の両親の有無では、入学者の約80%に両親がいるが、Ⅰ～Ⅳ期では20%近くが、欠損家庭であることが注目される。特に母子家庭が15%あまりである。しかし最近では欠損家庭は少なくなっている。

入学時の父の年齢は、40代と50代が半々づつで約90%を占め、母親では40代が最も多く69%で、最近になるにつれて若くなっている。

父親の職業では会社員や公務員など、サラリーマンが33%と最も多く、次いで農林漁業の18%となっている。父親の職業と対象者の在職の有無に関しては、特に関係がなさそうである。

父親の学歴では、年代によって差があるが、全体的に高等小学校以下が多く、近年になって、中等教育以上の学歴者が増えつつある。統計的には、父親の学歴と娘の在職に関しては、どの年代にも有意差がみられないが、割合において、多少、父親の教育が低ければ在職の割合が高くなる傾向がみられる。

母親が有職者であれば、その娘も有職者になるのであろうか。統計的にみると対象者の母親が有職者であれば、その娘も有職者であることが、母親が無職と比べると有意的に差があることがわかってきた。どの年代でも同様の傾向がみられるが、特にⅠ期とⅢ期に統計的に有意差がみられる。

在学時の学力が、卒業後の仕事の持続を動機づけるかを知るために、学年毎の成績の平均値と有職率との相関関係をみたのが図Ⅰである。各学年による成績の差が非常に低いのに比し、有職率では変動が高いが、成績と有職率との相関関係はないようである。

もう少し詳しく、成績グループ別の相関関係を調べてみたが、まず関係はないようである。

以上、卒業後の有職率に焦点をあてて、在学時にわかっていた情報との関係をみたところ、母親が仕事をもっていたかどうかの因子のみが、卒業後の有職に関係していたことがわかった。

考 察

以上の結果はアンケート調査などからの数的処理によって得たものであり、卒業生の動向についての一側面を概観したにすぎない。今後の問題としては、量質ともに把握した上での結果を得たいものと考えている。

とはいえ上述の結果から、以下のことが考えられよう。

1. 卒業生の就職率が47年より50年の調査で、やや低下しているとはいえ、70%を前後する高率であるという事実は、十分に社会へ貢献しているとみてよいのではないか。
2. IV期群にみられるように、卒業の時点で看護高校に就職する率が高いことなどから、時代の変遷にともなう社会的要請が端的に就業状況に反映されているとみられる。また、最近の傾向として、保健婦として臨床や産業の場への就業がみられるなど、新しい時代の流れに呼応していると考えられよう。
3. 卒業時看護高校への就業者中の離職率の高さは、同じ教職である養護教諭に比して圧倒的であるということは、一体何を意味しているであろうか。今回の調査によっては明らかではないが、臨床経験のない卒業生が、臨床指導を含む高校教育の中で、仕事を継続させていくということが如何に困難であるかを物語っているようにも考えられる。
4. 職業を継続させる要因の一つとして、在学時点で母親が職業を有している娘に、有意的であるという結果が得られたが、母親が有職者であるという事実が、どのようなかわりにおいて有意的な結果となるかは、今後の問題として探索してゆかねばならぬ点である。
5. 在学中の学業成績などは、職業継続についての動機づけには全く関係のない結果が得られた、ということは卒業後の何らかの要因が職業継続の動機となっているものと思われる。卒後教育などの刺激は継続要因として考えられるのではないかと推測され、大学の果す役割の中で卒後教育についても、十分検討してゆかねばならぬ点であろうと考えた。
6. 最近の傾向として、卒業時点で看護婦として就職するものが増加している。看護婦は他の職種に比して、就職後2～3年での離職者が高率であるという結果から、この時点に対する何らかの働きかけによって、当面の障害を克服し、のりこえることができれば、引続く仕事の中で、また新たな意欲が生まれ、それが継続への動機づけとなってくるのではなからうか。

最 後 に

アンケート調査に御協力いただきました皆様方に感謝するとともに、今後の看護発展のために諸先生方ならびに卒業生の皆様方の積極的な教育への参加、御協力をお願いし発表を終らせていただきます。

表1 卒業生の職業別就業状況

50.1.2末現在

職 種 回 数	学校保健		看護婦		保健婦				教 育				その他			主 婦	不 明			
	小 中 高	大 学	臨 床	行 政	一 般	産 業	臨 床	行 政	大 学	学 院	高 校	准 看	そ の 他	学 生	関 連			そ の 他		
1	3	2		1													0			
2	13	2		1		1				2	1						6			
3	14	6								2	1	2		1			2			
4	22	6		3		3				1		2					6	1		
5	14	4		2					1		1	1					5			
6	15	3		1		1				1			1		1		6	1		
7	24	7		3	1					2	1		1			1	7	1		
8	20	4		2		1				1	1	2	1				6	2		
9	20	5				1						1		1	1		8	3		
10	19	4	1			1		1		1		2			1	1	4	2		
11	22	4		1		1				3		6		1	1		4			
12	20	0		2					1	2	1	3	1				10			
13	19	3		4		1					1	2				1	7			
14	19	6		1		3				3	1	1					4			
15	23	3	1	4			2				2	3			1		6	1		
16	23	4		3		1	2				2	1			1		9			
17	20	2		3			1			1		1		1	1		7	3		
18	22	1		6		3				1		1		1			8	1		
19	22	4	1	9		1	3			1		1					1	1		
20	22	1		18		1		2									0			
21	17	2		9		2	1			2							1			
393	73	3	73	1	21	9	3	3	20	14	30	3	5	5	3	4	107	16		
	76		74		36				34		33		5							
50年	19.3%		18.8%		9.2%				8.6%		8.4%		1.3%			1.3%	0.8%	1.0%	27.2%	4.1%
百分率 47年 (332)	18.4%		20.5%		9.6				22.3%					2.1%			23.8%	3.3%		

表2 アンケート回答結果による卒業生の職業別就業状況

5 0 . 1 1

回	卒業生数	種数	学校保健		看護婦	保健婦				教育				学生	なし	主婦
			小中高	大学		一般	産業	臨床	行政	大学	学院	高校	准看			
1	3	0														
2	13	3	1													2
3	14	5	1							1		2				1
4	22	4	2									1				1
5	14	6	2		1				1							2
6	15	8	1		1	1				1			1			3
7	24	10	3		1						2				1	3
8	20	6	2								1		1			2
9	20	7	1			1								1		4
10	19	9	3	1				1	1			1				2
11	22	11	2							3		4				2
12	20	5							1			1				3
13	19	8	1								1	1				5
14	19	9	2			2				3		1				1
15	23	6	2				1									3
16	23	12	2		3						1	1				5
17	20	6	1		1					1				1		2
18	22	7				2				1		1				3
19	22	10	2	1	3	1	2									1
20	22	18			15	1		2								
21	17	15			9	2	1			2						1
			28	2	34	10	4	3	3	12	5	13	2	2	1	46
	393	165	30			20				32						
		42.0%	18.2%	20.6%		12.1%				19.4%				12%	0.6%	27.9%

表3 年代別就業状況

		学校保健	看護婦	保健婦	教育	その他	主婦	計
一回 十回	47年	42 (27.1)	17 (11.0)	12 (7.7)	31 (20.0)	2 (1.3)	51 (32.9)	155 (100)※
	50年	44 (28.6)	14 (9.1)	11 (7.1)	30 (19.5)	5 (3.3)	50 (32.5)	154 (100.1)
十一 十八回	50年	24 (14.7)	24 (14.7)	15 (9.2)	38 (23.3)	7 (4.5)	55 (33.7)	163 (99.9)
	47年	19 (11.5)	51 (30.7)	20 (12.1)	43 (25.9)	5 (3.0)	28 (16.9)	166 (100.1)

不明者を除く

図1 クラス単位の就業率と在学時の平均点の分布図 (1~18回生)

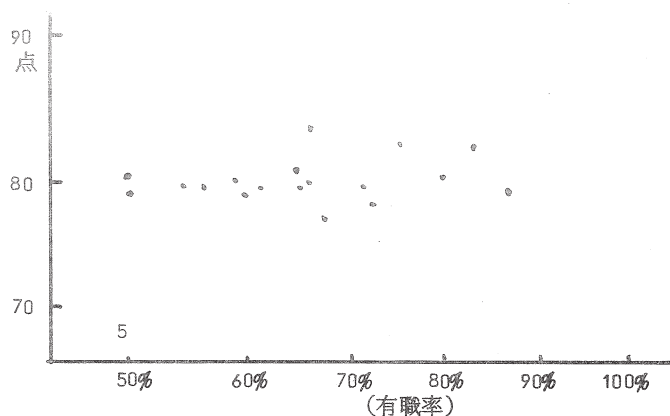


表4 卒業時の職業別・年代別就職状況

期	看護婦	保健婦	養護 教諭	看護高 校教諭	その他 (学生・研 究生など)	無就職 不明	計
I	5 (41.7)	0	6 (50.0)	0	0	1 (8.3)	12 (100)
II	16 (53.3)	8 (26.7)	6 (20.0)	0	0	0	30 (100)
III	18 (56.3)	2 (6.3)	8 (25.0)	3 (9.3)	1 (3.1)	0	32 (100)
IV	13 (37.1)	3 (8.6)	8 (22.9)	9 (25.7)	1 (2.9)	1 (2.9)	35 (100)
V	25 (61.0)	8 (19.5)	2 (4.9)	1 (2.4)	4 (9.8)	1 (2.4)	41 (100)
計	77	21	30	13	6	3	150
%	51.3	14.0	20.0	8.7	4.0	2.0	100

S50. 12

(注) I期 1～4回生
 II期 5～8回生
 III期 9～12回生
 IV期 13～16回生
 V期 17～20回生

} のアンケートへの回答者

表5 卒業時職業の変遷（1回生から16回生までの回答者）

	看護婦	保健婦	養護教諭	看護高校 など教員	その他	計
卒業後直後の職業 の継続	1人	4人	17人	4人		26人
初めの仕事 退職	12人 勤務年数 (2.9年)	3人 (6.6年)	3人 (3.0年)	5人 (3年)		23人
転職後 退職	9人 Nとして勤 務年数(2.4年)	1人	1人	3人		14人
一回転職後 継続	14人 (3.4年)	1人	3人	3人		21人
2回以上転職し 継続	12人 (3.7年)	5人	3人		2人	22人
計	48人	14人	27人	15人	2人	106人

※ 残り3人の内1人は卒業時から主婦 2人は不明

表6 職業の有無と職種別結婚状況と平均結婚年齢（1～20回までの回答者）

		有職者					無職者の退職前の職業					計
		看護婦	保健婦	養教 護諭	看教 護員	その他	看護婦	保健婦	養教 護諭	看教 護員	その他	
既婚者	人数	5	9	26	15	3	19	6	7	10	3	103人
	平均結婚 年齢	24.6	25.0	25.2	25.9	25.3	24.4	25.5	25.4	25.6	24.3	25.1才
未婚者数		22	6	4	14			1				47人

表7 出身地別、年代別学生数

出身地 期	高知	四他 国の の県	四除道 国く府 を都県	計
I	44人	4人	4人	52人
II	53人	11人	9人	73
III	49	11	21	81
IV	46	15	23	84
V	33	13	18	64
計	225	54	75	354

表8 年代別入学時の両親の有無

	両親有	父の 親み	母の 親み	両親無	計	(実数)
I	78.8	1.9	17.4	1.9	100	(52)
II	78.0	2.8	17.8	1.4	100	(73)
III	81.5	2.5	12.3	3.7	100	(81)
IV	81.0	3.4	15.5	0	100	(84)
V	87.5	4.8	6.3	1.6	100	(64)
総合	81.4	3.1	13.8	1.7	100	(354)

表9 入学時の父親の職業と卒業生の在職状況

卒業生		父親									計				
		農林漁	商工	公務員 公務員	専門職者	その他	無職	父なし	不明						
有職	養護教諭	11人	17人	19人	9人		5人	14人			234人				
	看護教員	9	38人	6	35人	25	77人	6	25人	2		9人	18	41人	7人
	その他	18	12	33	10	2人	2	9							
無職		25	14	39	22		3	15人	2		120				
計		63	49	116	47	2	12	56	9		354				

表10 父親の学歴と卒業生の在職状況

父親 卒業生	高等小 学以下	中等 教育	高等 教育	計
有職者	80	55	49	184
無職者	33	27	32	92
計	113	82	81	276人

表11 母親の職業の有無と娘の職業の有無の関係

母 娘	有職者	無職者	計
有職者	135人 (73.4)	82人 (59.9)	217人
無職者	49人 (26.7)	55人 (40.1)	104人
計	184人 (100)	137人 (100)	321人

χ^2 テスト P 0.01